



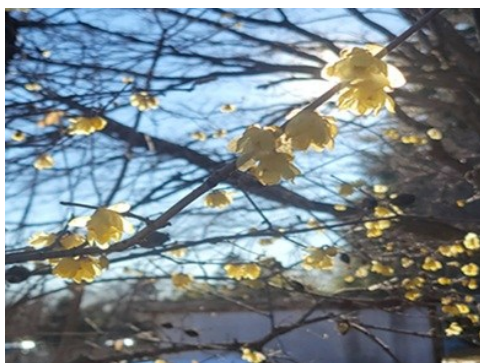
愛川ふれあいの村 今月の風景

# 2026年1月 自然のたより

新しい年が始まりました。抜けるような青空と、ピンと張りつめたように冷たい空気の日々が多くなりました。ただ、その寒さが緩みポカポカ陽気の日があったり、最強・最長寒波が到来して横浜でも雪が降ったりと、日によって気温の差が激しいようです。また、1月に台風1号が発生したり、黄砂が飛来したり、豪雪地帯でも驚くような積雪があったり、冬眠しないクマが多かったり、例年との違いを感じます。前年や前前年と比べながら、四季の移り変わりを感じ、来年はどうだろうと思いをはせ、今を生きる自然を眺めています。（岡本）



シモバシラは寒い朝限定



爽やかな香りソシンロウバイ



幸せの青い鳥ルリビタキ



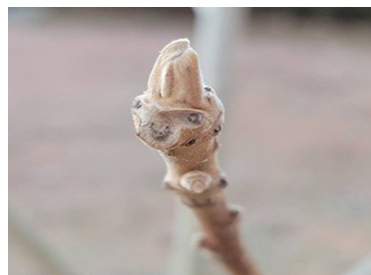
春を待つフデリンドウ



サザンカとメジロ



センダン



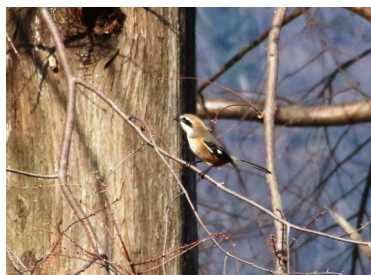
オニグルミ葉痕



シロハラ



シメ



モズ



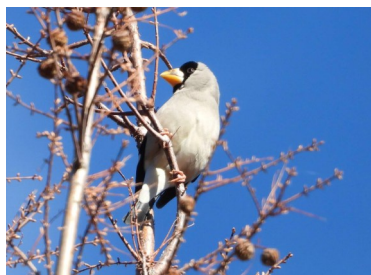
ツグミ



ジョウビタキ♀



ヒヨドリ



イカル



カワラヒワ



## トピックス ★幸せの青い鳥★

幸せの青い鳥、ルリビタキは、スズメよりも少し小さく、スズメ目ヒタキ科の野鳥です。北海道や本州、四国の高地で繁殖し、冬になると低い山地に降りてきます。雄はきれいな青色で、オオルリ、コルリと共に瑠璃三鳥に数えられます。

去年の11月頃から出会えそうな山にあちこち行き、探していました。でもなかなか見つかりません。年が明けて2か所で雌にようやく会うことができました。雌はとても愛らしいが、幸せの青い鳥はやっぱり雄です。「簡単に出会えないから幸せの青い鳥なのだ」と自分に言い聞かせ、童話劇「青い鳥」の主人公のチルチルとミチルのように山を歩き回りました。

ふれあいの村の勤務の日は、朝7時頃から1時間ちょっと、村のまわりを散策します。冬は木々の葉が落ちて鳥を探すには絶好の季節です。ツグミやシメ、イカル、きれいなジョウビタキにも最近をよく出会います。でも一番会いたいの幸せの青い鳥、ルリビタキの雄です。毎朝、村の山神様にお願いします。そして、遂に願いが叶いました！毎朝通る近くの林道でシジュウカラやアオジを見ていたら、突然藪の中から青い鳥が飛び出しました。真打ち登場です。探すこと2年、やっと幸せの青い鳥に出会うことができました。ピントは少し甘いですが、それはいつものことです（笑）。ありがとう、ルリビタキくん、今度は7～8mくらいの所に現れて少しじっとしてくれるといい写真が撮れます。山神様ルリビタキ様、よろしく願いいたします。（高梨）



ルリビタキ 雌



ルリビタキ 雄

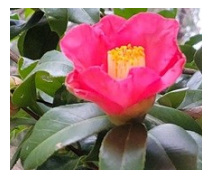
## 生き物 ★見分けがつくか冬の花★

寒空の冬に彩を加えてくれる大きな花が特徴の「椿（ツバキ）」と「山茶花（サザンカ）」。どちらも品種が多く、お互いを交配させたこともある経緯から、花の形が似ています。みなさんは見分けることができますか？①開花時期 ②葉の様子 ③花の散り方の3点から見分けます。

《山茶花》①10月～3月 品種によって異なる。②葉の付け根の葉柄に細かい毛が生えていて椿より小ぶり。③花弁がバラバラになり散る。

《ツバキ》①12月～3月 ②葉柄には毛が生えていない。③花ごとボトッと落ちる。

ほとんどの品種は3つの特徴で見分けがつきますが、掛け合わせた園芸種が多く、当てはまらないことも…。奥が深いです。ぜひ、冬もお花見をしてみたいはいかがでしょうか。（佐々木）



## 旬 ★柚子★

主に秋から冬にかけて旬を迎える柚子。熟し度合いで名前を変え、「青柚子」と「黄柚子」として流通しています。夏場の未熟果が青柚子、冬場に黄色く熟すと黄柚子です。香り高い方は黄柚子。冬至の日に柚子湯に入ると、良い匂いでリラックスできます。

柚子には、カリウムやビタミンC、クエン酸が豊富に含まれ、風邪予防や疲労回復、美肌効果があります。果肉に比べると、果皮にビタミンCが豊富に含まれています。皮を薄く切って大根と一緒に酢漬けにしたり、柚子味噌にしたりすると美味しいです。風邪のひき始めやお正月の疲れを感じる時、ぜひ柚子を食べてみてください。（石川）



来月の見どころ  
**環境指標となる「コケ類」**  
人間の活動が盛んな都市部では、ヒートアイランド現象による様々な環境問題が起きています。工場からの煤煙や自動車の排気ガス等に対して様々な改革や取り組みがされています。そのような大気汚染に対してコケ類は敏感に反応します。それは、維管束が無く、透明に見えるほど葉が薄いので直接雨や大気に触れるからです。特に樹幹着生の蘚苔類は、地面の影響よりも雨や大気の影響を受けやすく環境指標植物として優れています。同じように着生している地衣類も、亜硫酸ガスや窒素酸化物の影響について深く知ることができると考えられます。樹幹着生のコケ類の種類数と被度（その種が地面を覆っている割合）を調べ、それをその地域の地図上に書き込み、共通点を探し地図上で線を結び、その地域の空気汚染に関する地図が出来上がります。写真は、比較的不正常な地帯にあるタチヒダゴケ（上の写真）と、軽汚染地帯にあるヒナノハイゴケ（下の写真）です。着生コケ類がない汚染地帯も地図上に書き込もうと思います。（吉田）